

第2回 資源対応力強化のための革新的製鉄プロセス技術開発プロジェクト
事後評価検討会議事録

1. 日 時：平成26年2月3日（月）10：30～12：30

2. 場 所：経済産業省 別館850会議室

3. 出席者

（検討委員）〔敬称略・五十音順、※は座長〕

一柳 朋紀 株式会社鉄鋼新聞社 常務取締役 編集局長

島田 広道 独立行政法人産業技術総合研究所 理事

・研究環境安全本部長・評価部長

※宝田 恭之 群馬大学理工学研究院環境創生部門 教授

長坂 徹也 東北大学大学院工学研究科長補佐

・金属フロンティア工学専攻 教授

中村 崇 東北大学多元物質科学研究所サステナブル理工学研究センター金
属資源循環システム研究分野 教授

なお、今回、一柳委員は欠席

（研究開発実施者）

JFE スチール スチール研究所 武田主席研究員（プロジェクトリーダー）

新日鐵住金 プロセス研究所 製鉄研究開発部 樋口上席主幹研究員

新日鐵住金 プロセス研究所 製鉄研究開発部 西岡主幹研究員

神戸製鋼所 技術開発本部 石炭エネルギー技術開発部 濱口開発室室長

（事務局）

経済産業省 製造産業局 鉄鋼課 製鉄企画室 竹上室長

経済産業省 製造産業局 鉄鋼課 製鉄企画室 滝澤課長補佐

経済産業省 製造産業局 鉄鋼課 製鉄企画室 村田課長補佐

経済産業省 製造産業局 鉄鋼課 製鉄企画室 織田係長

（評価推進課）

経済産業省 産業技術環境局 技術評価室 飯村室長

4. 配布資料

- 資料 1 第 1 回評価検討会議事録（案）
資料 2 資源対応力強化のための革新的製鉄プロセス技術開発プロジェクト
事後評価報告書（案）

5. 議事

（１）開会

（２）第 1 回評価検討会議事録の確認について

事務局から、「資料 1 第 1 回評価検討会議事録（案）」について説明があり、議事録が了承された。

（３）評価報告書（案）について

事務局から、「資料 2 資源対応力強化のための革新的製鉄プロセス技術開発プロジェクト事後評価報告書（案）」について説明が行われ、以下の質疑応答の後、一部修正を行うこととして評価報告書（案）が承認された。なお、追加的な修正については座長一任で行うこととされた。

【長坂委員、島田委員】

2. 研究開発等の目標の妥当性について、「しかしながら～」の文章について、「一部目標が欠けている」、としている箇所は表現が曖昧であるため、例示を追記すべきである。

【事務局】 承知した。

【長坂委員】 4. 事業化、波及効果についての妥当性の、2 パラグラフ目は一般コークスのことなのかフェロコークスのことなのか表現が不明瞭であるため、正確性を期していただきたい。

【事務局】 承知した。

【中村委員】 当技術がエネルギー供給多様化に対応するための製鉄技術のオプションとして重要である、ということを明記すべき。

【島田委員】 関連して、早期に実用化・普及ということではなく、実用可能な状態にしておき、エネルギー構造等を考慮しながら選択肢として取り得るようにしておく、という趣旨に修文すべきではないか。

【事務局】 承知した。

（４）今後の予定について

事務局から、本評価検討会で了承された評価報告書（案）は、産業構造審議会産業技術分科会評価小委員会で審議され、了承を得た後、経済産業省ホームページで公開されるとの説明があった。

（５）閉会

以上